【社会】

世界各地の独立運動に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1．ウクライナのクリミア半島は，ロシア系住民が多数を占める地域であり，住民投票においてウクライナからの独立とロシアへの編入が賛成多数となった。欧米諸国が非難する中，ロシアはクリミア半島の編入を宣言した。

2．中国の新疆ウイグル自治区は，チベット仏教を信仰するウイグル族が多数を占める地域であるが，移住してきた漢族との間で対立がある。独立を求めて暴動や襲撃事件が多発している事態を受けて，中国政府は将来の独立を約束した。

3．クルド人は中央アジアを中心に居住する民族である。ソ連崩壊後，居住地域がカザフスタンやウズベキスタンなどに分断されて，各国で少数民族となっており，独立運動を展開している。

4．カナダのケベック州は，カナダの他の地域でフランス語系住民が多いのと異なり，英語系住民が大半を占めており，以前から独立運動が絶えない。独立を求めて活動する過激派もおり，テロ行為を繰り返している。

5．英国北部のスコットランドでは，独立を掲げる政党が躍進し，英国からの独立を問う住民投票を，英国政府の反対を押し切って実施した。住民投票に向けて独立の気運が急速に高まり，圧倒的多数で独立が可決された。

【正答番号　1】

【自然】

地震の震源と地震波に関する次の文中の下線部分ア～オのうち正しいのはどれか。

震源ではＰ波とＳ波が同時に発生し，地球内部を伝わっていく。ア<u>Ｐ波は媒質のねじれ，Ｓ波は媒質の密度の変化</u>が伝わっていく波であり，イ<u>Ｐ波よりもＳ波の方が</u>速く伝わり，観測地点に先に到着する。Ｐ波とＳ波の到着時間の差は初期微動継続時間と呼ばれ，ウ<u>震源からの距離が遠い観測地点ほど長くなる</u>。初期微動継続時間は震源の位置の決定に用いられるが，原理的にはエ<u>２か所の観測地点で初期微動継続時間を測定すれば</u>，震源の位置を決定することができる。日本列島付近では，日本海溝や琉球海溝などの海溝が北東から南西へ向かって延びているが，震源の分布を見ると，これらの海溝よりもオ<u>大陸側には少なく，大洋側には多い</u>という傾向がある。

1．ア
2．イ
3．ウ
4．エ
5．オ

【正答番号　３】

【判断推理】

Ａ～Ｄの４人が喫茶店に入り，各人が，お菓子をチーズケーキ，シュークリーム，アップルパイの３種類のうちから１種類又は２種類選び，更に飲み物を紅茶，コーヒーの２種類のうちから１種類選んで注文した。これに関して次のことが分かっているとき正しく言えるのはどれか。

・アップルパイを注文した人は２人であり，２人とも紅茶を注文した。
・Ａは２種類のお菓子とコーヒーを注文した。
・Ｂは，Ａと同じお菓子は注文しなかった。
・ＣとＤは同じ飲み物を注文した。
・Ｄはお菓子を１種類だけ注文したが，それはシュークリームではなかった。
・３人が注文したお菓子があった。

１．シュークリームを注文したのは１人だった。
２．コーヒーを注文したのは２人だった。
３．Ｂはチーズケーキを注文した。
４．Ｃはシュークリームを注文した。
５．Ｄはアップルパイを注文した。

【正答番号　１】